



サンフロント21

懇話会

〒410-8560
沼津市魚町1番地 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL.055-962-6520

2024.1.22 No.131



静岡新聞社・静岡放送
社長

大須賀 紳晃

新年あけましておめでとうございます。会員の皆様に心よりお慶び申し上げます。

長期にわたり国民生活を苦しめてきた新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、昨年は経済の動きが緩やかながらも回復した年になりました。温泉をはじめ魅力あふれるコンテンツを誇る伊豆、東部の観光地にとって、今年は客足の回復に向けた大事な年となりそうです。期待が膨らみます。

国際情勢は混沌としています。ロシアによるウクライナ侵攻の長期化に加え、イスラエルとイスラム組織ハマスとの紛争が勃発。世界の不安定さが増すばかりです。一方でスポーツ界においては、米大リーグで昨季も投打「二刀流」で活躍した大谷翔平選手が、44本塁打を放ち日本人初のホームラン王を獲得。さらに先発投手として10勝を挙げるなど異次元の記録を残し、アメリカン・リーグのMVPに輝きました。記録にも記憶にも永遠に残る活躍で、日本ばかりでなく世界のスポーツファンを沸かせました。今季は「打」だけのようですが、どんなプレーを見せてくれるのか。今から楽しみです。

サンフロント21懇話会は皆様方の厚いご支援に支えられ、今年30年目の節目を迎えます。2025年には記念事業も計画しております。今、県東部では沼津市の鉄道高架化事業がようやく起動しつつあります。三島市や富士市でも駅周辺の再開発事業などが見えてきました。中心市街地活性化に向けた大きなチャンスとなりそうです。

こうした次の時代への動きをより確実に前進させるため、当懇話会は会員の皆様とさまざまな提言をしていきたいと存じます。今年も変わらぬご支援、ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



サンフロント21懇話会
代表幹事

静岡中央銀行 社長

清野 眞司

新しい年を迎え、会員の皆様には心よりお慶びを申し上げます。県東部の活性化に向けて、さまざまな提言を続けているサンフロント21懇話会は30年目を迎えます。2025年には設立30周年記念事業を計画しておりますが、ことしはその存在感を益々高める年にしていきたいと思っております。

昨年、当地域では沼津市の鉄道高架化事業において、原、浮島地区で新貨物ターミナルの工事が始まりました。それに伴いJR沼津駅南口の商店街再開発や駅北口の大型商業施設跡地の活用など、駅前再開発整備が本格的に進み始めました。また2026年度完成に向けて進む三島駅南口東街区再開発、富士駅北口再開発、富士山周辺のウーブンシティ構想など、地域の未来を築く事業が進んでいます。こうした動きが東部地域全体の発展につながるよう、当懇話会はこれまでも増して、実効性のある提言活動に取り組みたいと考えています。

視点を国内外に転ずれば、昨年は新型コロナウイルスに伴う規制が緩和され、訪日外国人客数は2019年に迫る水準まで回復しました。魅力的な観光資源が豊富な県東部にも多くのビジネスチャンスが訪れたといえます。一方、国際情勢はロシアによるウクライナ侵攻の長期化や、イスラエルとイスラム組織ハマスとの紛争など、不安定さが増しています。さらに円安、それに伴う値上げの波が市民生活を直撃しています。

そうした中で県東部を、より活力あふれる地域にするためには、柔軟で独自性にあふれた新たな発想と果敢な行動力が求められます。ことしも会員の皆さまのさらなる結束と、懇話会活動への一層のご支援、ご協力をお願い致します。

新年のご挨拶



静岡県知事
川勝 平太

明けましておめでとうございます。

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、国際情勢の激変が引き起こす物価高騰や、激甚化、頻発化する自然災害など、地球規模で大きな影響がありました。一方で、コロナ後の社会経済活動の正常化へ動き出した中、本県は「東アジア文化都市」に選定され、日本の「文化の顔」、いわば「文化首都」として平和を希求するという理念の下、世界文化遺産登録10周年を迎えた富士山を中心に、日本文化の魅力を国内外に発信してまいりました。この大成功は、県民の皆様の御協力、平和の力に他なりません。改めて敬意を表し心から感謝申し上げます。

和食がユネスコ無形文化遺産に登録されて10年が経ちました。食の文化は人々を平和にします。国内外からの誘客促進と地域の魅力向上を図るため、観光事業者と食材の生産者、料理人、食の研究者などが連携し、来訪者に感動体験を提供するガストロノミーツーリズムを推進してまいります。さらに、新潟県・長野県・山梨県・静岡県の中央日本四県が県境を越えて一体的に広域周遊を促進する黄金KAIDOプロジェクト、20周年を記念して開催される浜名湖花博2024など、幅広い分野で地域の特色を活かした取り組みを切れ目なく実施してまいります。

将来にわたり持続可能な地域形成を実現するためには、人材確保が不可欠です。多様な暮ら

し方や働き方への関心が高まり、住まいもその一つの選択肢となっている中で、子育て世代の転入は増加しており、多くの方から選ばれる県になっています。市町と連携して豊かな暮らし空間の形成や多様な働き方ができる住空間の整備への支援を行い、更なる移住・定住を促進してまいります。

コロナ禍を契機としたデジタル化の急速な進展、脱炭素社会の構築に向けた取り組み、人口減少社会、都市圏と地方圏の人口の格差といった社会課題をビジネスチャンスと捉え、解決に取り組むスタートアップが現れています。失敗を恐れずチャレンジできる社会風土の醸成に努めるとともに、志のあるスタートアップの夢を本県で実現できる環境の整備に全力で取り組んでまいります。

人は体力が充実すると自信が付き、前向きな気持ちになれます。誰もが生涯にわたりスポーツに親しむことができ、かつ、スポーツと健康・食・医療・観光等を融合させるスポーツの総合産業化を進めてまいります。

県民の皆様の生命や財産を守るため、自然災害への備えや危機管理は最優先の取り組みです。国や市町、関係機関との連携により、不適切な盛土の通報・監視体制の強化、南海トラフ巨大地震による犠牲者の最小化に向けた自助の再認識や共助の対応力の向上、流域治水の推進による県土強靱化を進めてまいります。

世界クラスの資源・人材群を輩出している本県は、まさに日本を代表する地域です。日本の理想郷が今、形を表しつつあります。東アジア文化都市2023静岡県の成果を一つの契機にして、皆様元気に、そして自信を持って共に素晴らしいふじのくにを創ってまいりましょう。

結びに、今年一年の皆様のお健康と御多幸を心からお祈り申し上げます、年頭のご挨拶といたします。



沼津市長
頼重 秀一

新年あけましておめでとうございます。

令和6年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

去年は、本市が市制施行100周年を迎えた記念すべき年でありました。

この節目の年におきましては、7月1日の「記念式典」をはじめ、沼津ならではのコンテンツを集結した「記念イベント」など、本当に様々な記念事業を、沼津を愛するすべての方々と共に実施してまいりました。

新年におきましても、3月16日の土曜日には、千本浜海岸沖で、次の100年への希望を表現する「フィナーレ花火」を開催します。100周年の締めくくりを飾る大迫力の花火をお楽しみください。

さて、本市のまちづくりにつきましては、昨年3月に、「香陵アリーナ」がオープンし、多くの皆様にご利用いただいております。プロスポーツの試合なども開催できるようになり、スポーツを活かしたまちづくりが着実に進んでおります。

また、沼津駅周辺総合整備事業において、鉄道施設の本体工事に着手し、施設整備が本格化するなど、本市のまちづくりは、より一層加速しております。

この流れをさらに推進させるべく、沼津駅周辺総合整備事業を着実に進展させていくとともに、まちなかの公共空間づくりなどに取り組み、まちの骨格を形成する様々な都市基盤の整備を行ってまいります。

また、市民目線の「スマート市役所」の実現に向けた取組や、まちの周遊性向上に向けた観光DXの推進など、「X-Tech NUMAZU」の取組を力強く推進し、沼津に暮らす人々のQOL(Quality of Life)の向上を図ってまいります。

100周年の取組により高まった本市への誇りと愛着をこれからも持ち続け、沼津市を愛して下さる方々と協力しながら、魅力的なまちづくりを一層進めてまいります。

次の100年への一步を力強く踏み出していく沼津市にどうぞご期待ください。

結びに、市民の皆様の御健勝、御多幸並びに貴会の益々の発展を心よりお祈り申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。



われら 辰 年生まれ

2024年(令和6年)は、十二支が辰(たつ)、十干(じっかん)は甲(きのえ)です。これらを組み合わせた干支(えと)では、甲辰(きのえ・たつ)となります。甲辰(きのえ・たつ)は、どちらの文字にも成長し勢いを増す意味を持っていることから「上昇し勢いを増しながらぐんぐんと成長していく年」になると言われています。本年がまさにこの通りの1年になることを期待します。

辰年生まれの人は「先見の明がある」といわれています。そんな辰年生まれの会員の皆様に、新年の期待や抱負を寄せていただきました。



株式会社シード
取締役副社長
青山 茂
昭和27年1月21日生まれ

謹んで新春をお祝い申し上げます。

中原中也の詩のように「思えば遠く来たもんだ・・・」と思いつつも、新年を迎えるたび清々しい想いが膨らみます。今後、事業環境の変化は高速かつ多様になり、未知の領域への対応も必要です。情報に翻弄されることなく、“今”ある仕事を入口に解答を見出し、行動していきたいと思えます。



株式会社ゴトー
代表取締役会長
後藤 行宏
昭和27年4月16日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

私は6度目の年男になり、改めて過ぎ去りし歳月を感じます。昨年は沼津市が市制100周年を迎え色々な行事が催されました。次の100年に向けて、鉄道高架・駅周辺の整備・再開発ビルの計画などが動き出しています。この機会に街の賑わいを取り戻したいと思えます。

IT・AI・デジタル化など世の中は大きく変化しています、その流れに取り残されないように努めてまいります。



株式会社サン
斯波 幹和
昭和39年1月13日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

今年還暦となりますが、50歳の時に歳をひとつとるごとに気持ちの持ち方を1歳ずつ若返らせようと決めました。ですから気持ちの上では40歳になります。

40歳の頃の自分を思い返しながら、当時の自分に負けない行動力と思考で、今年一年駆け抜けていく所存です。本年もどうぞよろしくお願い致します。



静岡県沼津土木事務所長
曾根 裕介
昭和39年9月17日生まれ

あけましておめでとうございます。

昨年は、国道414号バイパス一部開通、新貨物ターミナル移転工事着工など大きな節目の1年でした。今年も地域の皆様が安心かつ快適に生活できるよう、引き続き道路や河川など身近なインフラの整備と保全に努めてまいります。



静岡県下田財務事務所長
神谷 明良
昭和39年4月2日生まれ

新年明けましておめでとうございます。

今年4月で60歳を迎え、5回目の年男と(役職)定年退職、還暦を経験する年になります。賀茂地域は、コロナ後の地域経済は病み上がりの感が残りますが、本年は本格的な経済発展の年となりますよう祈念しております。

辰年は昇り龍にあやかって、右肩上がりでいきましょう。



株式会社石井組
代表取締役社長
石井 肇
昭和51年3月31日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

ここ数年世界では大きな変化が起き、ニューノーマルという言葉もすこし懐かしさを感じます。様々な変化に対応すべく、龍が天に昇るがごとく上昇志向を持って何事にも挑戦していきたいと思えます。

本年も宜しくお願いいたします。



三島商工会議所
専務理事
坪内 祐一
昭和39年9月3日生まれ

新年あけましておめでとうございます。

私が生まれたのは、日本で初めてのオリンピックが開催される直前の時でした。この60年は、高度経済成長、バブル崩壊、デフレ経済など浮き沈みがありました。常に前進し続けた日本経済。本年も明るく希望に満ち溢れた一年であるよう願っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。



県議会議員
岩田 徹也
昭和51年6月12日生まれ

謹んで新年のお喜び申し上げます。

昨年、初当選させていただき初めての年男となります。一日でも早くお役に立てるよう奮闘する中で、将来を担うこども達の未来の為、地域の仕事の魅力・すばらしさを広める施策に励んでおります。本年も皆様からご指導いただきながら邁進して参ります。どうぞよろしくお願い致します。

岸田政権にブリザード／ 賃上げと求心力が命運握る



共同通信社
政治部長
杉田 雄心

2024年の政界は視界不良だ。岸田文雄首相は減税批判や自民党派閥マネー問題を受けた逆風下

で、厳しい政権運営を余儀なくされる。命運を握るのは①首相の求心力回復②賃上げ—の成否で、衆院解散・総選挙のタイミングを左右する。4月、6月の政治・経済の動向が鍵を握りそうだ。自民党、立憲民主党はいずれも9月にリーダー選びを控え、党内権力闘争も想定される。

首相は「物価上昇を上回る賃上げ経済の実現」を掲げる。1月からの通常国会は物価高や円安を踏まえた24年度予算案が審議される。官邸が狙うのは、6月のボーナス明細書に所得税・住民税の減税が記され、賃上げによる所得増を下支えするシナリオだ。6月は国会会期末と重なるため、最低レベルの内閣支持率が回復基調となれば衆院解散のひとつのタイミングとなる。

ただ、安倍派や二階派の政治資金パーティー問題が民意の離反を招くのは必至。政治的な「ブリザード」への対応が後手に回れば、9月の自民党総裁選を前に「岸田降ろし」が起きかねない。ポスト岸田には、人気が高い河野太郎デジタル担当相、石破茂元幹事長のほか、ダークホースとして上川陽子外相、小泉進次郎元環境相の名前が挙がる。衆院議員の任期は残り2年を切り、与野党議員は衆院選に備えて生き残り策を探る。

4月には賃上げの実現度合いが見えてくる。政権の中間評価となる春の統一補欠選挙が4月28日に投開票される。細田博之前衆院議長の死去に伴う衆院島根1区が想定されている。東京都知事選は7月7日投開票。対決構図は固まっていないが、小池百合子知事が再選を狙うかどうかが焦点だ。

9月に代表選を迎える立憲民主党は政党支持率の低迷に悩む。泉健太代表は次期衆院選で150議席を獲得できなければ辞任すると公言し、交代論を収めている状態だ。日本維新の会は25年大阪・関西万博の経費増大問題で失速気味。国民民主党は路線対立で有力者の前原誠司元外相らが離れた。「多弱野党」が自民・公明の連立政権の頼みの綱という政治状況が続きそうだ。

緩やかに回復も国内外にリスク 「賃上げ」カギに —2024年の日本経済



時事通信社
経済部長
川村 豊

2024年の日本経済は、コロナ禍からの経済活動の正常化が進み、緩やかな回復基調となること

が予想される。ただ、長期化する物価高が家計を圧迫し続けており、個人消費がどこまで持ち直すかは不透明。また、米国や中国など海外経済が失速して日本経済に波及するリスクもくすぶる。本格的な景気回復に向け、物価高に打ち勝つ賃上げがどこまで広がるかがカギを握りそうだ。

23年7～9月期の日本の実質GDPは、前期比で年率2.9%減と4四半期ぶりのマイナス成長に陥った。足を引っ張ったのが、GDPの半分以上を占める個人消費。大幅なマイナスだった4～6月期からの回復が期待されたが、物価高を受けた節約志向の高まりにより食料品や衣料品などの消費が冴えず、2期連続で減少した。

一方、値上げの動きが沈静化しつつあるのも事実。値上げ動向を調査している帝国データバンクによると、23年11月の食品値上げは139品で、22年から始まった値上げラッシュの中で最少だった。インバウンド復活による消費の押し上げ効果もあり、23年10～12月期は2%程度のプラス成長に回復するとの見方が多い。24年も底堅い成長が見込まれている。

もっとも、不安材料も多い。最大の貿易相手国である中国の経済は不動産不況を受け、失速しかねない状況。米国は長期にわたる急ピッチな利上げの影響で、景気後退入りも懸念される。

また、物価上昇がこのまま落ち着くのかも見通せない。中東情勢など地政学リスクは原油をはじめとする原材料価格の上昇要因で、円安が進めば再び輸入物価を押し上げることになる。海外経済が不透明な中、日本経済が力強い成長軌道に乗れるかどうかは、24年春闘で中小企業を含めた幅広い賃上げを実現できるかが試金石となる。

サンフロント21懇話会

第29回 東部地区分科会

日時

2023年
11月29日

未来を拓く—
沼津・東部地区
これからのまちづくり

会場

沼津リバーサイド
ホテル



サンフロント21懇話会は11月29日、沼津リバーサイドホテル（沼津市）で2023年度東部地区分科会を開催した。中心市街地再開発の可能性や将来像について、基調講演では東京大学大学院の中島直人准教授が『コンパクトシティのアーバニズム』と題して都市生活の新たな視点を紹介。パネルディスカッションでは沼津市の頼重秀一市長、沼津あげつち商店街振興組合の小松浩二理事長が加わり、沼津市とまちづくりや県東部地区との連携について語り合った。

主催者挨拶



静岡新聞社・静岡放送
社長

大須賀 紳晃

本日は大変お忙しい中、大勢の方にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

新型コロナウイルスは完全な終息とはいきませんが、政府の水際対策を含め、大幅な行動制限が緩和されたということで人の流れが一気に動いております。加えて円安も手伝い、日本には多くの海外観光客が押し寄せ、人気の観光地はオーバーツーリズム等の問題も生じております。物価高は改善されず、ウクライナや中東情勢も治まらない状況ではありますが、国内では景気の更なる回復を期待したいところです。

本日のテーマはまちづくりです。沼津市は先月、原地区で新貨物ターミナル基地の着工を迎え、市制100周年の節目の年、停滞していた鉄道高架化事業がようやく動き出しました。

当懇話会の本年度活動方針では“未来の都市景観を県東部から発信”を掲げております。東部地区ではウーヴンシティ、三島駅南口東街区再開発等のプロジェクトが進行しております。本日は未来の都市景観につながるアイデアやヒントを発信できるのではないかと期待しております。

懇話会は今後も地域の活性化に資する活動を目的に、研究や提言活動に取り組んでまいります。会員の皆さまの一層のお力添えをお願いし、主催者のご挨拶とさせていただきます。

懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行
代表取締役社長

清野 眞司

日頃はサンフロント21懇話会の活動にご理解ご尽力を賜り、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。今回の東部地区分科会開催地である沼津市は、市制施行100周年を迎えました。国内の地方都市において人口減少や高齢化問題は共通の課題であります。沼津市ではコンパクトプラスネットワークを目指す計画が選定されており、持続可能な都市を目指しております。今後は官民一体となって大きな社会課題に向け、何が出来るかをそれぞれの立場で考えていくことが重要であります。

本日の基調講演講師をお願いした中島直人先生は都市計画がご専門で、コンパクトシティに関する著書も多数発表されており、先ほどの社会課題解決に向け、多くの気づきを与えてくださるものと期待しております。

開催地代表挨拶



沼津市長
頼重 秀一氏

本日は県東部首長の皆さまにも沼津市に多数お集まりいただき、ありがとうございます。

行政の首長として、このような場でいただく貴重な提言をしっかりと活かしてまいりたいと思っております。

沼津市は市制施行100周年を迎えました。大正12年7月1日、当時の沼津町と楊原村が対等合併し、全国で89番目、静岡県では静岡・浜松に次ぐ3番目の市として誕生し、沼津駅の前身である沼津停車場開通後は、皇室や高級軍人の方々が別荘を構え、海の軽井沢と呼ばれるほど発展しました。

市制100周年は100年に1度しかない記念ですので、今年度、官民で36件、民間より22件の記念事業を提案していただきました。7月1日には記念式典、市内最大のイベントである沼津夏まつりでも市民パレードを大々的に開催しました。10月28～29日には「みなとオアシスSea級グルメ全国大会」を開催して33店舗に12万5千人もの人々が集まりました。

12月3日には「市民が祝う沼津第九」を開催し、合唱に参加する私もドイツ語の歌詞に奮闘しております。なんとなくコロナで沈滞してしまったムードを盛り上げて次の100年への強力を一歩を踏み出したいと思っております。

本日はパネリストの一人として今後のまちづくりについてお話しさせていただきますが、沼津単体ではなく県東部地域全体としっかり連携することが重要だと思っております。



基調講演

コンパクトシティのアーバニズム ~これからの まちづくりに向けて

講師

東京大学大学院准教授
中島 直人氏



上野と富士吉田での 実験プロジェクト



私は都市計画が専門ですが具体的な都市空間デザインや歴史を活かしたまちづくりに関心があり、過去と現在と未来をどうやってつなげていくかを重視しています。今日は「アーバニズム」という言葉を紹介したいと思います。

我々の研究室では現在、「上野プロジェクト」を実践しています。東京の上野駅周辺にある盛り場はもともと江戸時代創業の老舗が並ぶ歴史的な街並みだったのですが、今はすっかり風俗店が軒を連ね、住民が気軽に歩けなくなってしまった一角を、安心して歩ける街にしたいという地元の声が寄せられました。研究室としてはアート、学術、文学など上野らしい文化的な資源を活かしながらまちづくりをしようと、具体的にはスナックの空き店舗を活かしてアートで埋めていく実験を試みたり、路上を使ったイベントを開催しました。不忍池のほとりで車道の一部を歩行者天国にし“持ち寄り書店”を開いたのです。

富士吉田市(山梨県)は私が一番長く関わっている地方自治体として、富士山観光のインバウンドではモビリティの問題から、「富士山を眺めるだけで町にお金を落としてくれない」ということもあり、さまざまな取組みを社会実験として実践しました。モビリティの課題解決

として富士吉田市が導入中の自動運転バスを
発展させ、馬車、自転車、そしてウォーキング
で回遊し、楽しめるまちづくりに取り組んでい
ます。

都市空間のデザイン= 都市生活のエンジョイ



10年間ほど国内外のいろいろな都市を調査してきましたが、最も感銘を受けたのはコペンハーゲンです。初めてコペンハーゲンの町に降り立ったとき、驚いたのはリバーサイドに泳げるプールがあり、人々が気軽に泳いで日光浴をしていたこと。川に掛かる橋にはモダンな自転車専用道も整備されていました。これが平日の午後4時ぐらいの光景だったのです。この時間帯に市民が川のほとりでのんびり過ごせるというのは、デンマークに就労時間の後、家に帰る前にパブリックスペースで過ごす余暇時間があるからです。このような時間の使い方は、就業時間が日没を過ぎ、飲み屋に行くしかない日本の都会では考えられないことでしょう。

学生時代、私は広島県福山の鞆の浦で景観を害する高架事業の反対運動にかかわっていました。鞆の浦では江戸時代の雁木で築かれた港が残っており、夕方になると人々がのんびり過ごしていた。そんな風景が日本の地方の小さな町にも残っているのです。

東京郊外の団地では、ふだんは入れない空気をグリーンテラスにしつらえてみたら、団地のファミリーや高校生が気軽におしゃべりをしたりお茶しに來たりするようになった。空間を変えることで生活者のニーズが見えてきたのです。私の家の近所では、コロナのとき国交省の許可を得て、商店街の街路灯をプレートで囲んで外飲みができるようにした。都市空間をデザインするということは都市生活をエンジョイすることなんですね。これがアーバニストという言葉に関係する考え方です。

生活者自身が都市の 創造的活動に関わる



都市再生＝アーバンルネッサンスという潮流の始まりはロンドンで、「もし都市の負債を資産に変えようとするならば、都市計画家や測量技師ではなく、より多くのアーバニストと社会起業家が必要だ」という考えが根底にあります。

私は日本で「都市を創生する公務員アーバニストスクール」というのを2022年9月から開講しました。公務員はもちろん仕事で都市計画に関わっていますが、自分自身の活動として展開できるのではないかと。神戸ではアーバニストに一定期間地域に住んでもらう「神戸市アーバニストレジデンス」を、横浜のアーバニストスクールではさまざまな地域活動家を講師に迎えています。

アーバニストを辞書では「都市計画の専門家、都市に住み、都市の生活を楽しんでいる人」と2つの意味が書かれていますが、この両方を併せ持つ人がアーバニストだろうと思っています。計画する人と、実際に営みを楽しめる人を区別しないということ。生活者が自ら都市の創造的な活動に関わるのです。成熟した時代、都市を造り替えたり新しい使い方を考えたりするのに、昔のようにハードな技術でインフラを整備するというよりも、もう少し軽やかに、空き家を再生する等、専門家でなくてもできそうなことをやるということ。アーバニズムとはアーバニストの活動を指し、欧米ではかつての

「アーバンプランニング」という言葉と置き換えられつつあります。

アーバニズムが目指す 3つのC



アーバニズムには、社会学から出てきた都市における生活様式という意味から始まり、一方でこれからまちをどうしていこうかというビジョンや探求を指すこともあります。今までの都市計画はピラミッドの頂点の一部にいた専門家が指揮してきましたが、アーバニズムでは一部ではなく社会全体が担い手となるビジョンです。

アーバニズムがどういう社会を目指しているかといえば、3つのCを挙げました。

一つ目のCはモノを所有し消費するということ(Consumption)。二つ目のCは情報を持ち色々な人とつながること(Connect)。三つ目のCはクリエイティブソサエティ。自らが創ることに価値を持つ社会ということです。自分たちでどれだけ創れるかが幸せの基準になるのです。

「創る」にはモノや環境や社会的制度等さまざまありますが、まちづくりに創造的にかかわり楽しめる人が幸せ。何も天才的な独創性が必要というわけではなく、子どもの発想がそうであるように自由で個性的な発想を発揮し、いかに楽しめるかということ。アーバニストが生まれるには環境が大切で、まちのことを愛し、一緒にまちのことを考える機会が必要です。

LRTから始まった富山の コンパクトなまちづくり



人口減少で高齢化する中、町の機能が薄く広がってはいは効率が悪い、もう少し中心部にコンパクトに密度濃く集約的な都市構造にしていくことが必要だというのが、今の全国の地方都市の命題。そのきっかけになったのが2004年から始まった富山のコンパクトなまちづくりです。

富山市ではLRT(次世代型路面電車システ

ム)を導入し、その沿線地区の居住促進をはかろうと「串とお団子」作戦でコンパクトシティづくりに20年間取り組みました。お団子に見立てた3つの地域を串(一定の基準を持つ公共交通機関)でつなぐという作戦です。

この作戦には大きく3つのテーマがあり、①串を創る、②お団子への居住推進、③各お団子のうち中心市街地のお団子は、他のお団子では出来ない機能をより充実させるということ。富山市の場合、広大な富山平野のうち、居住区域の人口を2005年段階で28%だったのを2025年までに42%まで持っていくことで持続可能な都市になると想定し、富山市全体をコンパクトにするのではなく、28%を42%に上げるという目標を掲げました。

LRTは宇都宮でも有名になりましたが、旧JRの路線を第3セクターで運行させ、もっと気軽に乗りやすくする路面電車です。いきなり車に取って代わるものではありませんが、高齢者が乗りやすかったり週末に飲みに行く時など気軽に利用したりできる。花束を持って乗車したら無料になるというようなサービスも実践できます。

人と人の距離がコンパクトになる



今、中心市街地は商業のみならず、ゆっくり時間を過ごせる場所や空間が求められています。富山の場合、まちなか居住という言い方をしますが、モノ消費ではなく、まちで過ごす時間消費。生活の選択肢を増やすという意味でも、街中の住宅供給は重要です。

富山では結婚すると郊外に一軒家を持つというのが定番でしたが、年を取って夫婦だけになると雪下ろしは大変だし、運転免許を返上したら移動も困難になる。街中で暮らせばこれらが解決できます。

私どもで学生や高齢者を対象に、実際に小さなGPSを装着してもらい、街中でどのような行動をしているかを計測したところ、いろいろな過ごし方をしていることがわかりました。ある大学生は大学と住まいは郊外にありますが、市街地に立ち寄って時間を過ごす事も多い。最近街中に学生のシェアハウスもできました。

市街地に住むシニアは朝晩、近くの神社や広場を散歩して楽しんでいます。郊外ではむずかしいですね。大事なものは商店や商品ではなく、人や場所なのです。

コンパクトシティのポイントは、都市構造がコンパクトになるだけでなく、人と人の距離感がコンパクトになるということ。だからこそアーバニズムには計画者と生活者の両面の視点が必要になるのです。

1930年代に沼津にやってきた都市計画の大家・石川栄耀が「沼津の上土(あげつち)の人々が頑張っていて人には力があるが町にはない」という話をしました。彼は「大人にまちづくりの夢を話しても大人はそもそも夢を見ないから通じない、子どもには夢があるから君たちに伝えたい」と、小学生や中学生向けの本をたくさん書きました。江原素六も「青年即未来」という言葉を遺したように、アーバニストを育てるには、まちへの夢や愛情を持つ若い世代への働きかけが大切です。

〈講師プロフィール〉

中島 直人 (なかじま・なおと) 氏 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻・准教授

1976年東京都生まれ。東京大学工学部都市工学科卒、同大学院修士課程修了。博士(工学)。東京大学大学院助手、同助教、イェール大学客員研究員、慶應義塾大学専任講師、同准教授を経て現職。専門は都市計画。一般社団法人アーバニスト代表理事。主な著作に『都市計画の思想と場所 日本近現代都市計画史ノート』(東京大学出版会、2018年)、『コンパクトシティのアーバニズム コンパクトなまちづくり、富山の経験』(共編著、東京大学出版会、2020年)、『アーバニスト 魅力ある都市の創生者たち』(編著、ちくま新書、2021年)など。

パネルディスカッション

未来を拓く—沼津・東部地区 これからのまちづくり

パネリスト

- 中島 直人 氏 (東京大学大学院准教授)
- 頼重 秀一 氏 (沼津市長)
- 小松 浩二 氏 (株REFS代表取締役 沼津あげつち商店街振興組合理事長)

コーディネーター

- 青山 茂 氏 (株シード副社長、TESS研究員)

市制施行100周年の 沼津が抱える課題

(青山) 100年前、市制がスタートした沼津市が、どこから来て、どこへ行こうとしているのか。沼津市が目指すコンパクトシティとはどういうものか、まず頼重市長のお考えをうかがいたいと思います。

(頼重) 沼津を含めた県東部地域は首都圏に近く、国家の大動脈である東名・新東名・東海道線という交通アクセスにも恵まれています。北には富士山、南には伊豆ジオパーク、西には駿河湾、東には箱根という優れた自然環境もある。このような地理的優位性を最大限に活かし、沼津市は県東部地域の産業経済・政治・文化・教育・医療等の中心的な役割を担っています。

鎌倉時代に書かれた「吾妻鏡」に、「沼津」という地名がすでに登場しています。当時から港を中心に発展してきたのだらうと思われませんが、明治22年、今の沼津駅の前身にあたる沼津停車場が開通し、海路と陸路両面の交通の便を活かして商業をはじめ様々な産業が発達しました。

やがてモータリゼーションの時代となり、中央幹線道路の整備が進み、駅を飛び越えて中心市街地が北側にも広がりました。ここで都市構造的に問題になったのは、沼津駅の鉄道線路の幅が最大80メートルあり、これが東西長く続いて中心市街地が南北で分断されてしまい、一体となったまちづくりが難しくなったということ。南側にある沼津港や各観光地のポテンシャルを北側が活用できない状況が続いてきました。

これを解決するため、沼津駅の鉄道高架事業が昭和63年3月に立ち上がり、当時の渡辺朗市長から数えて6代目の市長にあたる私の代でようやく動き出したわけです。今は、まちづくりの方針が具体的に定まる過渡期にある、と考えています。



頼重 秀一 氏 氏

人が集まる場所に、 地域の課題解決のヒントがある



小松 浩二 氏

世界29カ国を旅しましたが、イタリアで食べたトマトに感動し、野菜のおいしさに目覚めたことがきっかけで「食」に興味を持ちました。海外から帰ってきて東京の食品会社に就職し、5年間バイヤーを務めたのですが、東京に集まる食材はある程度流通に乗ったものが多く、何かつまらない。もっと農作物の背景にある物語のようなものをもっと知りたいと思い、南伊豆から富士宮まで生産者を訪ね、無農薬野菜を作る生産者さんの素敵な笑顔に導かれて29年前、REFSという会社を作りました。現在、沼津と熱海に2店舗を持ち、今は店舗売上よりもEC事業の売上が伸びていますが、ECだけで事業をするのは地域にいない意味がないので、実店舗でいかにファンをつくるかを考えています。

7年前からナイトマーケットや、港と街をつなぐイベントを続けています。2011年には気仙沼のサンマを食べるイベントを開いて魚市場の活用方法を学んだり、沼津御用邸や沼津中央公園で従来のイベントを活性化させるお手伝いをしています。私自身イベントはあまり得意ではないのですが、人が集まることによって地域の課題解決のヒントが見つかるのです。イベント当日だけ盛り上がりながらも翌日からまた街中は静かになってしまう状況を何とかしようと、空き店舗の再利用、河川敷でのマーケットやコンサート、中央公園の再整備に

(小松) 私は有機農産物の販売会社(株)REFSを経営しながら、あげつち商店街振興組合の理事長を7年前、36歳のときから務めています。

学生時代に1年間休学してユーラシアを横断し、

向けた実証実験の支援等を続けています。

(青山) 小松さんは企業人という匂いがしないし、旧来の地域おこし運動家とも違う。中島先生がおっしゃったアーバニストなのでしょうか。

(中島) まさにアーバニストですね。中心市街地の再開発とは、20年前は商業を活性化させることだと思われていましたが、今は「居住」が重視されます。消費する住民がそこにいなければ商業は成り立たないからです。まず住むということを再生させる。そして街で時間を過ごせる場所を創る。そういう場所から新しいものが生まれ、ついでに商業も元気になる。そういう流れだろうと思います。

中心市街地が他の地域と違うのは、物語をつむぐ資源があるということです。郊外のショッピングセンターの広場も安心安全でいいのですが、中心市街地には歴史がありストーリーが発信されている。ヒストリーもストーリーの中心になるでしょう。

質の高い公共空間に 求められるもの

(頼重) 鉄道高架事業が動き出して、まちづくりによりやく着手できるようになりましたが、中心市街地でありながら駅を挟んで南北の人々が交流できる機会はまだ整っていません。市議会議員時代、駅北の住民の人たちと話をしたとき、「駅南の人たちと何か一緒にやったことは一度も無い」「あれだけ距離が離れてしまうと何もできない」と言われ、愕然とした経験があります。

今、沼津駅の中には貨物用地と車両基地があります。高架事業によってこれらを郊外に移転させれば、この空間と鉄道高架線下の空間とを併せ、沼津駅周辺に膨大な空間が突如現れ、中心市街地再開発の土台となるでしょう。静岡県東部地域の拠点都市として高次都市機能や公共公益施設の誘致、駅周辺に防災機能の拠

点にもなる公園整備も可能です。

今の沼津駅周辺は緑や花のない無機質な空間といわれ、バスロータリーやタクシー乗り場など自動車を中心とした整備がなされていますが、これからの時代は人にとって快適で楽しい空間にしていくことが大切です。沼津駅を降り立った人が心地よさを感じる質の高い公共空間形成が求められると思います。

(小松) 沼津に久しぶりに戻ってきたとき、素敵な公園が整備されていたのですが、よく見ると禁止事項ばかりで、使っちゃいけない公園？と思えるほどでした。おそらく近隣の住民からクレームがあり、行政が対応に困って禁止にしたのでしょう。規制やルールではなく、マナーで守るローカルカルチャーを地域がつくる努力も必要だろうと思います。

今、再整備中の沼津中央公園でも夜、外国人が騒いだり、高校生が卓球をして騒ぐという問題もありますが、こちらもコミュニケーションの取り方を考えながら接するようにしています。

コンパクトなまちづくりは “計画しすぎない”こと

(青山) 中島先生の講演でコンパクトとは人と人との関係性だというご指摘がありましたが、どういう点に配慮が必要でしょうか？

(中島) 計画しすぎないことが大事だと思います。コンパクトと聞くとあれもこれもギュウ詰めにしたくなるのですが、新しいチャレンジができる「余白」があったほうがいい。沼津では鉄道高架下の空間が確かに起爆剤になると思いますが、我々の時代が用途をすべて決めてしまうのではなく、若い世代が未来に何か新しいことができる余白が必要ではないでしょうか。「計画」だけでなく「遊び」「学び」が大事だという姿勢を持っていないと窮屈なまちづくりになってしまう。

(青山) 重要なご指摘ですね。都市計画はある

べき都市像を決めて刻んで進めるという手法になりがちですが、暫定的で短期間にいろいろな戦術や取組みがあってもいいと。沼津駅前の西武百貨店本館跡地では実験広場を展開中です。

(頼重) 今後における再開発のタネ地として確保している場所で、せっかくの一等地ですのでどうやって活用していくか他市町の事例も研究しているところです。愛知県豊田市は駅前にちょうど沼津と同じような空間があり、緑の天然芝で何でも応用が利くように整備されています。

鉄道高架事業は長年にわたって進められますので、まちづくりも短期・中期・長期とそれぞれ取り組んでいきます。動線も大事で、今の駅前は地下道を通らなければ南側のさんさん通りには行けませんが、地上横断化させバリアフリーを実現し、面的活用を進めたいと考えています。

理想の風景を思い描いて 一つずつ創り上げる

(青山) 短期・中期・長期というお話がありましたが、まちづくりはとにかく非常に時間が掛かります。時代の変化が早い中で、今後掲げるまちづくりを継続させるには何が必要でしょうか？

(小松) “これから見たい素敵な風景”を思い描いて一つ一つ創り上げていくことでしょうか。2011年に計画停電で上土(あげつち)が真っ暗になり、商店街が寂しくなったとき、もともと街中には若者が少なかったので、とりあえず外に木の机と椅子を並べ、路上食事会を企画しました。最初集まったのは8人でしたが、翌月は20人になり、次から次へと増えていき、結果的に河川敷を使わせてもらうことになりました。

道路や河川敷のような公共空間を利用するには許可取りが大変で、行政の担当者からは最

初は無理だと言われました。イベントはその日だけ盛り上がるのではなく、公共空間をどのように使えばいいのかを学び訓練する場にしようと粘り強く交渉し、今の沼津中央公園は飲酒もOKになりました。一つ一つ、理想的な空間にしていくために行政も上手に規制緩和をしていただきたいし、クリエイティブになってほしいですね。

行政の人と合意形成をするには、地元住民側もコミュニケーションを積極的に取るようにしなければと思います。そんな積み重ねや継続が、素敵な風景を創り上げていくんじゃないでしょうか。東京にない地域らしさは「こういう風景を創りたい」と想像することから始まると思います。

(頼重) 行政側として深く反省するところで、先例主義やできないことをあげつらうのではなく、できる可能性を探る組織風土を作っているかねばと思います。小松さんのようなプレーヤーの存在は極めて重要ですね。

沼津中央公園では実証トライアルを進めており、利用者や出展者の声を聞きながら、中心市街地における公園の在り方を探っているところです。中央公園に隣接する狩野川でも賑わいの創出を目指し、空き店舗を活かしたイノベーションのまちづくりに取り組んでいます。

リブランディング事業ではこれまで頑張ってきた店主の方々に個店の魅力をさらに磨いてもらおうと同時に、エリアブランディングにも力を入れています。行政の補助金に頼らず、自ら挑戦される若い世代が増え、週末のたびに誰かが何かをやっているというワクワク感がありますね。このような流れができたところで、沼津の鉄道高架事業に伴う中心市街地まちづくり戦略を策定し、公共空間としてこういうカタチにしたいと市民の皆さんに説明していきます。

お店を出したい、ワークショップを開きたいという人にも気軽に参加してもらい、実験のプレーヤーになっていただく。沼津の恵まれた自然環境や地域から生まれた素晴らしいコンテンツを多くの方が楽しめるよう、志あるプ

レーヤーとともに挑戦したいですね。

■ 持続可能なまちづくりと地域連携 ■

(中島) 富山のコンパクトなまちづくりは結果として20年続いてきましたが、最初から長期的な計画があってやってきたわけではなく、画期的なプロジェクトが市民から評価され、信頼を積み重ねていったものです。最初、市民に「コンパクトなまちづくり」と言っても理解してもらえませんでした。LRTを作って実際に利用してもらって「ああコンパクトなまちづくりってこういうことか」と理解が高まったのです。一つ一つの事業の中で市民がメリットを感じた成果ですね。

私がすごいと思うのは、富山市役所の職員誰もが「富山のコンパクトなまちづくりが何を目指しているか」をきちんと説明できるということ。自分がどこに向かって仕事をしているのか理解している。

さらに驚くのは市民の皆さんもコンパクトなまちづくりを語れるということ。コンパクトなまちづくりがみんなのものになっているんですね。市長や市役所だけが突っ走ってきたわけではない。そこが素晴らしいと思います。

(小松) 中島先生の講演でコペンハーゲンの働いた後の時間の使い方や楽しみ方をうかがい、沼津や県東部の可能性を強く感じました。コロナをきっかけに新しい商いの方法が求められる中、単に売上をつくるだけでなく、この地域でどんなライフスタイルを提案できるかを考えようと思います。



中島 直人 氏

(中島) 富山大学には都市デザイン学部があり、富山に住む若い世代がまちづくりに関わることで、持続可能なまちづくりを可能にしている。駿東エリアでも例えば学校が連携し、子どもたちが地域を学び、共通点、違いや個性を知る…そんな連携も可能ではないかと思えます。

(頼重) 県東部地域は国道1号があり東名・新東名・伊豆縦貫道といった広域道路ネットワークによって生活圏が一体化しています。首都圏100キロ圏には甲府、前橋、宇都宮、水戸が

あり、それぞれが県庁所在地です。我々のライバルはそれら他県地域であり、県東部の中で競争している場合ではない。近隣市町の皆さんとしっかり連携していくことで、次の時代に向かっていけると考えています。

(青山) 今日はありがとうございました。



〈出演者のご略歴〉

頼重 秀一 (よりしげ・しゅういち) 氏 沼津市長

沼津市出身。日本大学理工学部建築学科卒業後、株式会社間組に入社、その後、衆議院議員公設秘書を経て、平成15年に沼津市議会議員に初当選。以後4期連続当選し、平成29年には第83代沼津市議会議長に就任。平成30年より現職。モットーは「和をもって貴しとなす」 趣味は観葉植物、音楽鑑賞、ドライブ

小松 浩二 (こまつ・こうじ) 氏 株REFS代表取締役、一般社団法人lanescape代表理事、沼津あげつち商店街振興組合理事長

学生時代、1年間休学してユーラシアを横断し29カ国旅した際、どの地域に行っても、おいしいモノのまわりには人が集まり、笑顔になるという、食の持つ人を幸せにする力と食の素晴らしさを知る。帰国後、食品会社に5年間勤め、バイヤー業等に携わった後、1年間カナディアンロッキーでアウトドアを学び、帰国。半年間、生産者を回って話を聞いたり農作業の手伝いなどをした後、REFSを起業。つくる人と食べる人の架け橋になるよう日々畑に通い、野菜を通して食卓が笑顔になることを目指す。

青山 茂 (あおやま・しげる) 氏 サンフロント21懇話会のシンクタンクTESS研究員

(株)シード取締役副社長、(株)スポーツ・ウェルネス総合企画研究所代表取締役社長。静岡県内外の企業および自治体のプロジェクトのコンサルティングから事業プロデュースまで幅広く手がける。静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会会長、ふじのくにしずおか観光振興アドバイザー。

ラジオマイトーク



いかい たけし
伊海 剛志 氏
株イカイ代表取締役社長

モットー ▶ 座右の銘「日本一」、社訓「勝つ」「人を大切に
にする」
趣味 ▶ スポーツ観戦、カラオケ、麻雀
出身地 ▶ 沼津市

令和5年9月3日放送

クラフトビール製造販売で 沼津駅前を元気に

お話のポイント

♠ 当社は製造業を中心とした人材派遣会社。請負を含め全国で約4,800人。製造請負分野では国内6番目の規模です。医療事務派遣は約20年前に入社した女性社員が自ら病院で医療事務の仕事を行い、頼られる存在にまでなってから派遣社員に交代する形で始めました。
♥ 昨年から沼津市仲見世でクラフトビール「ワンドロップ」の製造販売を開始。「沼津はクラフトビールが盛ん」と聞き、さらに有名にしようと。時之栖様にご指導もいただきました。市民として沼津の駅前や仲見世は元気であってほしい。賑わう場所づく

りを目指して、挑戦することが大切だと思っています。

◆ スポーツ選手を応援し、チームも保有している。特にテニス部は創部初年度に全国実業団で日本一。日本リーグは当社グループで計6回優勝。プロ契約選手のマクラクラン勉は東京五輪で錦織圭選手とダブルスを組みベスト8に。スポーツで活躍した人はパワーがある。その力を迎え入れ、「強い社員、強い企業」を育てていきたい。

♣ カラオケの新機種が発売されると社内各部署に設置。学ぶと楽しむ、2つの機会を社員に提供しています。



さとう しんいちろう
佐藤 慎一郎 氏
佐政水産㈱代表取締役社長

趣味 ▶ 旅行、読書、温泉、食べ歩き、ウォーキング
出身地 ▶ 沼津市

令和5年11月12日放送

沼津の明日をつくろう

お話のポイント

♠ 110年ほど前に曾祖父の政吉が創業。沼津港の鮮魚出荷や水産物卸、加工業などの水産業を行っています。私は10歳ごろから登校前に魚市場で競りの準備などを手伝い、中高時代は長期休みに朝3時から仕事でした。
♥ 沼津港の水揚げ量が昔より減少し、水産業の先行きに危機を感じ、新規事業を考える中で、沼津の立地から観光地としてのポテンシャルは高いと考え、2011年、沼津港に「港八十三番地」を開業しました。
◆ 港八十三番地は地元の人にも来てもらえる場所を目指して、営業は夜までとし、地元の食材を2割以上使用

しています。またあまり認知度の高かった深海魚を使用したメニューづくりを全店舗にお願いしました。さらに、世界でどこにもない深海に特化した「沼津港深海水族館」を一緒に開業しました。今では年間35万人以上が訪れるようになり、深海魚もブランド化することができました。

♣ 来場者が一日楽しめるように、シューティングアトラクションやベーカリー、カフェなども開業し、今年1月には駿河湾の深海を体験できるVRアトラクションも開始。沼津港を活性化し、沼津全体や静岡東部にも賑わいを広げていければ。

サンフロント21懇話会の 会員情報

■ 会員の変更

◇ 株式会社エム・オー・エー商事（エムオーエーインターナショナル）

代表取締役 土江 誠 → 理事 堀島 義治